

2022年度 年主題「つながって～今、わたしを生きる～」



0・1・2歳児 9月主題 「のびのびと」「きこえる」
月のねがい
◎お祈りやさんびかを歌う姿を見てまねようとする。
◎興味の幅が広がり、のびのびと身体を動かす。
◎夏から秋に移り変わる中、虫の声に耳を傾けたり、風を感じたりする。

3・4・5歳児 9月主題 「のびやかに」
月のねがい
◎礼拝、祈り、さんびかを通して心を動かす。
◎好きな遊びを通して気持ちの合う友だちと出会い、心も体ものびやかに過ごす。
◎空や風、虫など身近な事柄を通して季節の移り変わりを感じる。
◎友だちと一緒にいることや、友だちとイメージを共有して遊ぶことを愉快だと感じる。
◎一人ひとりが自分らしさをもって、今を楽しむ。



くまぜみに教えられて

夏真っ盛りの頃、私自身もコロナ感染症の濃厚接触者となり、初めて自粛期間を経験しました。ずーっと家にいると、時間の使い方に戸惑いながらも、早朝からセミの元気な鳴き声が否応なしにも耳につきました。うるさいな～と思いながらも、2・3日するとその鳴き声は午前中でピタッと止むことに気がきました。調べてみると、早朝から鳴くのはくまぜみで、10時頃には鳴き止むとありました。人生61年「知らなかった・・・！」と、1人深く感動しました。早く虫博士の年長児さんたちに伝えたいと思い、自粛が終わって園の生活に戻ったときに、意気揚々とその事を披露しました。すると、「そうだよ！そして夕方鳴くのはヒグラシだよ！」と、立派な答えが返ってきました。また、園庭ではせみを虫網で捕まえては逃がしている子どもたち。それを見ながら、「キャッチ&リリースだね」と、また聞き慣れない言葉を教えてくれました。そんな言葉を知っているかっこいい年長児にも、イヤイヤ期があったよな～と、1人感動しながら思い出していました。

イヤイヤ期の2歳児の子どもたちに、保育者はいつも「魔法の言葉」を探しています。靴下、上靴を履かなくてはい、わかっているけどどうにもこうにも「やりたくない！」と動きません。「一緒にしよう」「さあ、おやつだよ」・・・でもなかなか動きません。その時、「上靴履いたらスキップしようか」と声掛けてみると、パッと顔を上げて急いで上靴を履こうとします。この子にとって、魔法の言葉は「スキップ」だったのです。(笑)「魔法の言葉」がヒットした瞬間、子どもも保育者も満面の笑顔になりました。保護者の方々も経験されたことがあるのではないのでしょうか。魔法の言葉が、最高に楽しいと思った瞬間でした。

まだまだ残暑は厳しいですが、2学期の行事のお稽古も始まります。魔法の言葉を探しながら、子どもたちも保護者の方も保育者も、元気に楽しい毎日を過ごせていけたらと思います。2学期もどうぞよろしくお願いたします。
川脇芳江

今月の聖句

「平和をつくるものは幸いです。」

マタイ5:9

今月の聖句に選ばれている詩篇第37篇は、人が受ける悩みや苦しみ、この世にある矛盾に直面する中で生まれた詩です。つまり、「何故この世に悪があるのか、神がおられるのに何故なのか」という矛盾です。世の中にはすぐには答えの出ない問題が沢山あります。人生経験を積んでも、答えが出ないものもあります。ヴィクトール・フランクルはユダヤ人強制収容所の体験を述べた「夜と霧」の中で報告します。「鉄条網の中で、夕焼けを綺麗だ、と見上げることができた人間が生き残った」と。どのような状況下であろうと、絶望しない力こそ生きる力を与える恵みだと言っているのです。「あなたの恵みを私は楽しみ喜びます」という詩篇の言葉も、実はそういう中から生まれた希望の言葉なのです。

誰もが好きこのんで病や苦しみを欲しがらる人はいません。けれども、不可抗力的にそれが降りかかってくる時があるのです。河野進という牧師は、次のような詩を書きました。「病まなければ、ささげ得ない祈りがある。病まなければ、信じ得ない奇跡がある。病まなければ、聞き得ない御言葉がある。病まなければ、近づき得ない聖所がある。病まなければ、仰ぎ得ない御顔がある。おお、病まなければ、私は人間でさえもあり得ない」。この「病む」という言葉を「苦しむ」に置き換えた時、「おお、苦しまなければ、私は人間でさえもあり得ない」と読む時、私たちは詩編37篇の心が理解できます。苦しむこと、悩むこと、何らかの壁にぶつかっても、そのことを通して、私たちは生きる力を得る、人として成長し続けるのです。協力牧師 池田基宣

利用料見直しのお知らせ
現在の利用料額は、R2.1～12期の所得額によって算定されております。R3.1～R3.12期の市民税額における階層の変動に伴い、市による利用料の見直しが行われます。9月分より保育料・給食費が変更になる世帯もあります。市より送付の利用料決定通知書でご確認下さい。

9月の行事予定

1日(木)	始園日(1号午前保育)
6日(火)	誕生会(2才以上9・10月生)
7日(水)	幼保小連携公開保育
17日(土)	弁当日
29日(木)	芋掘り

濃厚接触者の対応について
現在、園児にコロナの陽性者が報告された場合、関係園児は濃厚接触者として5日間の行動制限の対象になっております。保護者の皆さまのお仕事にも影響があるかと思いますが、今後ともご理解ご協力のほど宜しくお願い致します。

10月の行事予定

4日(火)	運動会予行練習・弁当日
15日(土)	第65回運動会
16日(日)	運動会予備日
17日(月)	振替休日(1号)
20日(木)	秋の遠足(3才以上児)
21日(金)	秋の遠足(0・1・2才児)
24日(月)	すもう大会(あい組)
25日(火)	すもう大会(のぞみ組)
26日(水)	おにぎり・スヌーパーティー



コロナ禍における保育
～子どもたちの育ちで考えておきたいこと～

コロナ禍における生活も3年目に入りましたが、今まで以上に私たちの周りでも感染者が増え、自宅療養や、濃厚接触者として行動制限を余儀なくされる夏になりました。こども園の中でできることと云ったら、「換気、消毒、密を避ける」です。前2つは何とかなるものの、保育の現場は子どもとの密接な関わりが避けられるものではありません。この夏、保育者は、しっかりと覚悟を持って保育にあたりました。例えば、子どもが泣きながら近づいてきたら、コロナ禍の状況であっても、子どもと目線を合わせて話を聞いてあげることが私たち保育者の仕事です。子どもは大人に身を寄せることで、精神的な安定を得るものです。子どもが求めてきたら、出来る限りそれに応えてあげるのが保育者の本分と心得ています。コロナ禍にあっても、共感的な関わりは欠かせないものだと思えて感じたところです。また、子どもたちは、コロナ禍における問題に向かう大人の姿や言葉を目の当たりにしています。大人がネガティブな態度や発言を続けると、子どもたちは未来を暗いものと捉え

てしまい、将来への希望が育まれにくくなるのではないかと心配しています。確かにコロナの収束はなかなか難しいことですが、それ以外にも世界には様々な問題が山積しています。だからといって悲観的な側面ばかりに目を向けるのではなく、自分達のできることを増やして、夢が実現できる喜びをたくさん感じていくことが大切ではないでしょうか。料理や片付けができるようになったり、植物を育ててみたりと、小さな体験を積み重ねることで、世界を少しずつ変えていける。子どもたちには、そうした感覚を育てていってもらいたいと切に願っています。私たち保育者も子どもたちの思いを形にしていけるよう創意工夫をしながら頑張っていきたいと思っております。2学期もどうぞよろしくお願致します。
園長



非認知能力が育つ家庭の「ルール」
七月まではそこそこ落ち着いていた本園のコロナ感染でしたが、八月は幾度か子どもたちや職員が陽性が判明し、その度に自粛休園をお願いして、大変ご迷惑をお掛けいたしました。いよいよ大きな行事の多い2学期です。一つ一つの行事が工夫を重ねて、無事に実施できることを願っています。最近の小学生は、放課後は何をしようかと悩んでいるので、友達と一緒に遊んでいるのか。帰宅してランドセルを投げて、暗くなるまで遊びまくっていた身としては、大いに気になる場所です。本園が運営している児童クラブにもたくさんのお子さんが通所してきます。「宿題が終わらないと遊ばせません」なんてルールは特にありませんが、みんなしつかり済ませてから、おやつを食べたり遊んでいこうとする。その後、園庭で無心に遊んでいる姿を見ていると、こども園の時と変わらぬ、我を忘れて遊ぶ姿が愛おしいです。先日、研修講演の中で紹介された本、ボーク重子著「非認知能力」の育て方、何となく面白そうだったので読んでみました。「非認知能力」については、この欄でも幾度となく取り上げてきましたが、常に「非認知能力」を高めることを意識した子育てを実践してきた方は初めてで、大いに興味を湧かされた。具体的な家庭での取り組み方が分かりやすい言葉で綴ってあったので、皆さまにもお薦めです。非認知能力を伸ばすために、家庭で取り組んでいる実践として以下のご紹介があります。①家庭のルールづくり②豊かな対話とコミュニケーション③思う存分遊ばせる④子どもと自分を受け入れる⑤「好き」を見つけること⑥子どもでも、日常生活で育まれる非認知能力の土台となるのは「ルールを守る」とあります。以下の五つがその効果です。①自信と達成感が得られる：小さな達成感の積み重ねが自己肯定感を育む。②子どもが小さな頃から始めれば、良い習慣になる：習慣は幼ければ幼いほどその人の人生に定着する。③子どもの自主性が育つ：親からの押し付けではなく、家族全員で決め実行することで、自ら守ろうとする責任感が育つ。④コミュニケーションの一員になる訓練になる：家族の共同作業としてのルールなので、家族の一員として自覚しやすくなる。⑤一度ルールを決めたら、親がいちいち迷わずに済む：親も人間。気分によって寛容になったり不寛容になったりする。基本がぶれないので結論はシンプル。⑥自制心を鍛えることができる：家族の役割としてルールを守っている自覚が、我慢の心を育てている。自分で決めたルールは、窮乏に縛られるものではなく、自由な心を育むツール。窮乏も様々な行事も、状況によっては短縮や中止を余儀なくされるかも知れませんが、職員一同で知恵を絞って、出来る限りの環境を整えて経験を担保していきたいと願っております。早寝・早起き・朝ごはん・朝ウンチで、親子共々元気でいきたいと思います。行事の多い2学期も、引き続きご協力をお願いいたします。
学園長